

第6章 豊中市（大阪府）の事例－高齢者へのアウトリーチー

第1節 地域のすがた

本章では、大阪府豊中市の事例を紹介する¹。豊中市は大阪市の北側に位置し、交通の利便性の高さから住宅地として発展してきた。また、転勤による転入世帯が多く（図表 6-2）、地域とのつながりが希薄な市民が多くなっているのが特徴である。特に男性は、昼間に大阪市等で勤務している者が多いため、その懸念は大きい。また、人口推移は図表 6-3 のようになっており、65 歳以上人口が増加していることがわかる。

図表 6-1 豊中市の位置



出所：「白地図ぬりぬり」（<https://n.freemap.jp>）にて筆者作成。

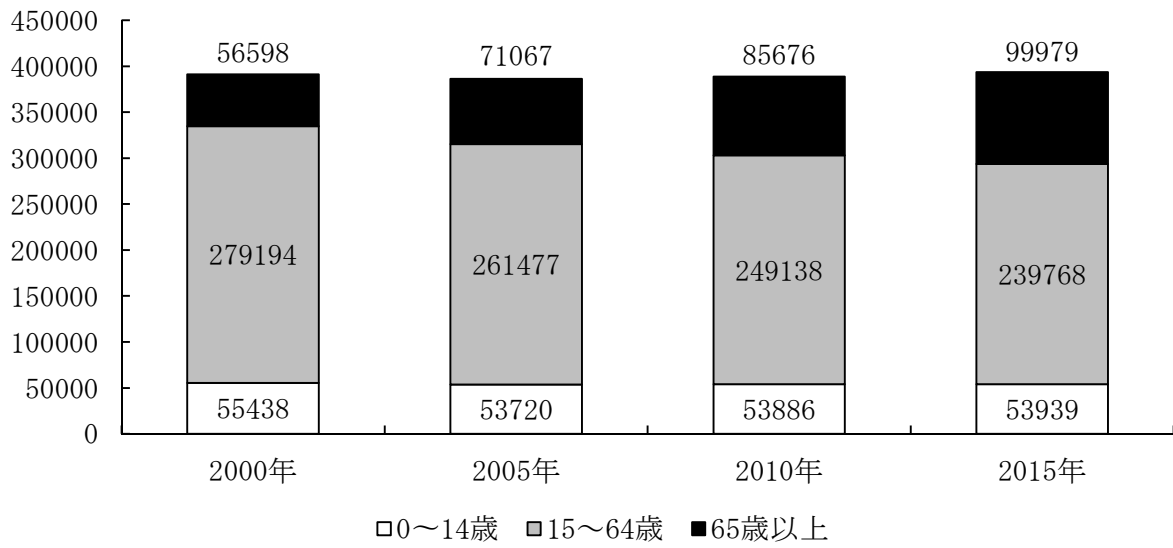
図表 6-2 豊中市の人口異動（人）

	転入	転出	増減（推計）
2012年	25319	19225	6094
2013年	21382	19647	1735
2014年	19965	19251	714
2015年	21892	20006	1886
2016年（推計）	20628	19659	969

出所：豊中市「平成 28 年 豊中市統計書」より筆者作成。

¹ 大阪府豊中市のヒアリング調査では、豊中市市民協働部くらし支援課の宮城節子氏・濱政宏司氏・竹内淳氏、健康福祉部高齢者支援課の林裕美氏・舟橋朋美氏、豊中市生涯現役促進地域連携事業推進協議会の山田幸敏氏、大阪労働局職業安定部職業対策課の総山佳宏氏、シニアワークセンターとよなかの与那嶺学氏・濱名研氏にご協力いただいた。調査に応じてくださった皆様には記して謝意を表したい。また、本調査は 2017 年 7 月 20 日・21 日に実施されたものであり、本報告は調査時点の内容であることに留意されたい。

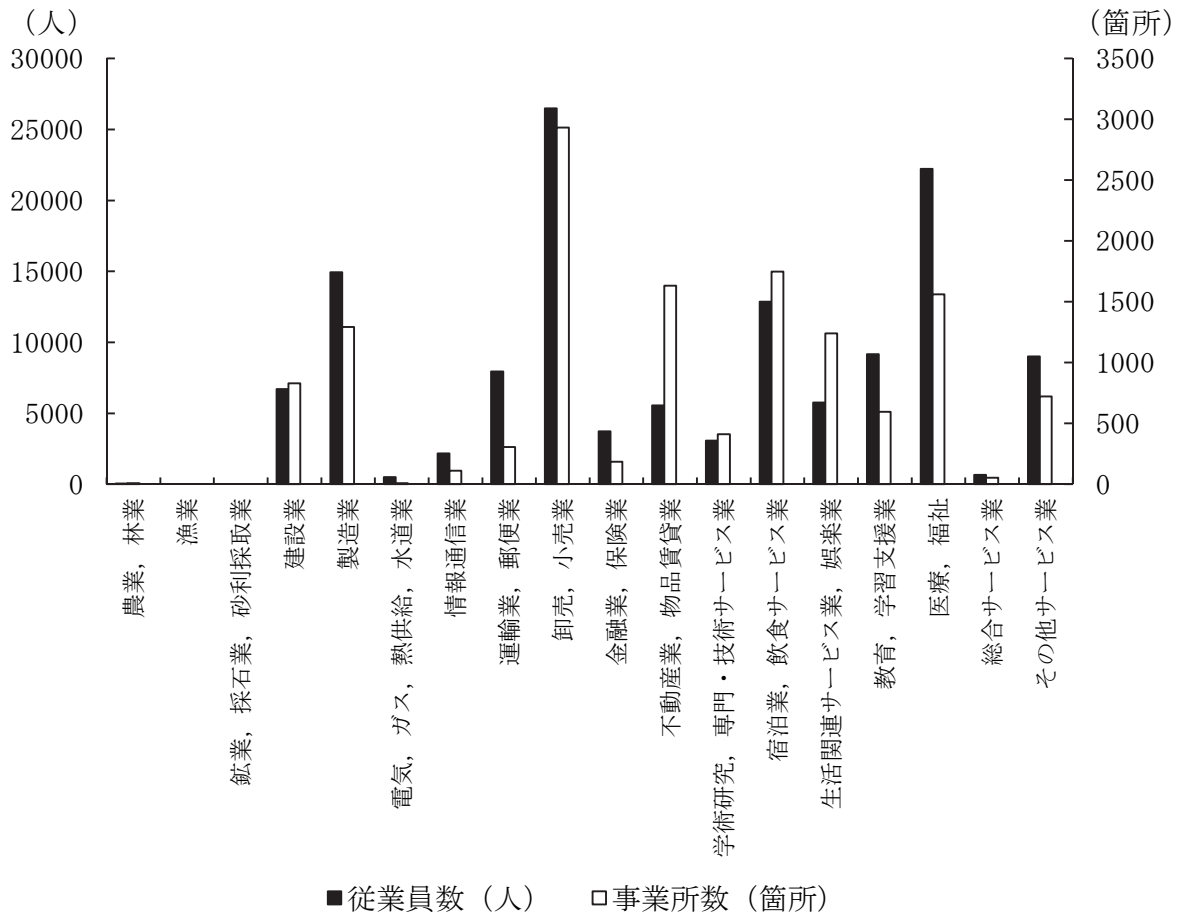
図表 6-3 豊中市の人口推移（人）



出所：豊中市「平成 24 年 豊中市統計書」、豊中市「平成 28 年 豊中市統計書」より筆者作成。

産業については、卸売・小売業を筆頭に、医療・福祉、宿泊・飲食サービス業といった日常生活に関連する分野が多くなっている特徴がある（図表 6-4）。

図表 6-4 豊中市の産業別従事者数および事業所数

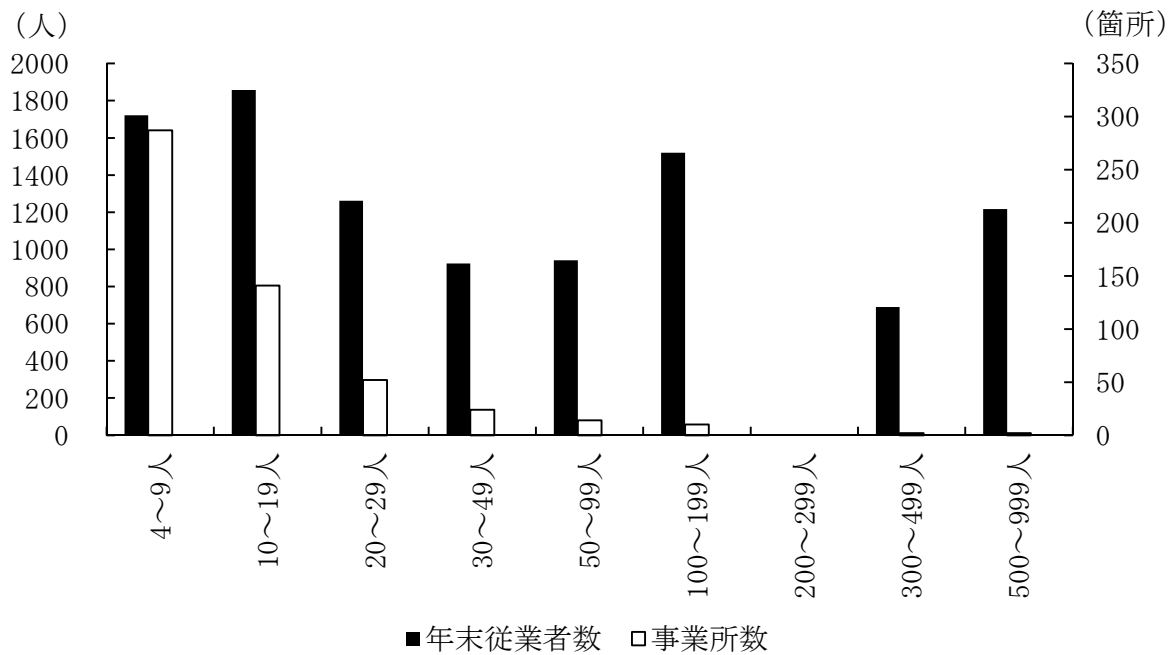


出所：豊中市「平成 28 年 豊中市統計書」より筆者作成。

第 2 節 生涯現役促進地域連携事業の概要

豊中市は中小・零細企業が多い地域でもあり（図表 6-5）、人手不足が懸念材料となっている。その一方で、65 歳以上の要支援・要介護認定を受けていない高齢者のうち経済的困難を感じる者が 3 割を超えている実態があり（2014 年度豊中市調べ）、そうした者をはじめとして、高齢者を人手不足解消に活用できるのではないか、という関心を背景に、生涯現役促進地域連携事業（以下、「連携事業」と表記）を実施するに至っている。

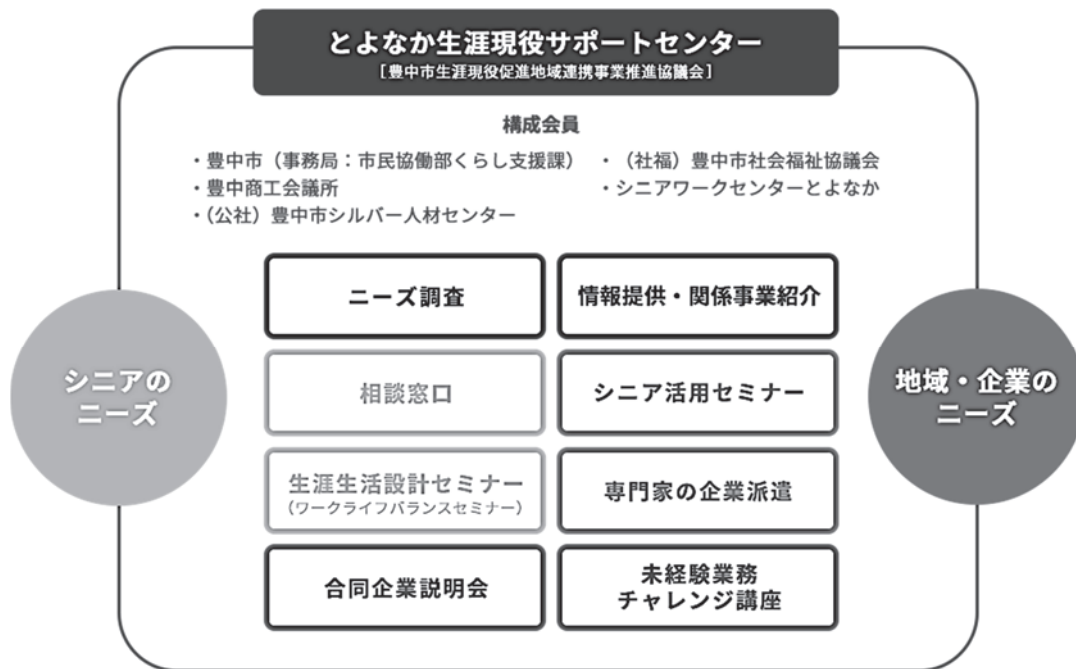
図表 6-5 豊中市における製造業の従業者規模別事業所数



出所：豊中市「平成 28 年 豊中市統計書」より筆者作成。

市は連携事業に際して、「豊中市生涯現役促進地域連携事業推進協議会」（通称「S サポ」）という協議会を組織している。構成員は、豊中市、豊中商工会議所、（公社）豊中市シルバー人材センター、（社福）豊中市社会福祉協議会、及びシニアワークセンターとよなかとなっている（図表 6-6）。

図表 6-6 S サポ概念図および構成員

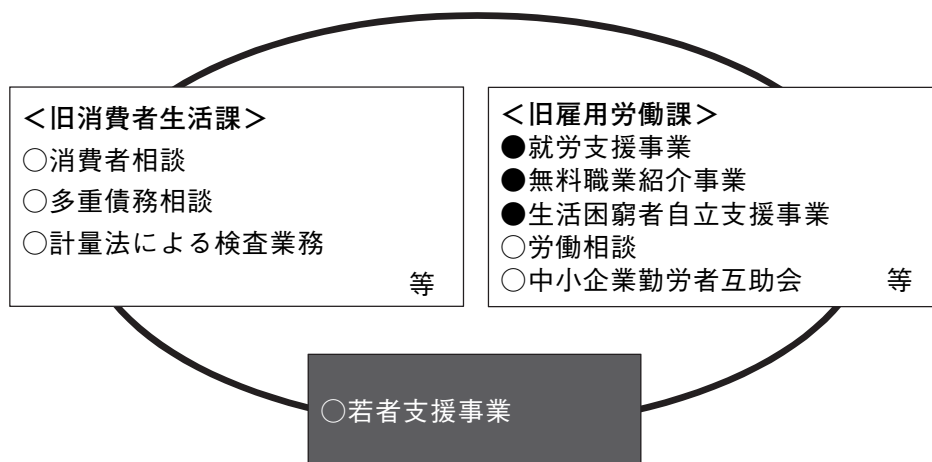


出所：「S サポホームページ「S サポとは」」(<http://s-sapo.net/about>) より引用。

1 連携事業にさきがけた取組

豊中市では、連携事業にさきがけ単独事業として、豊中市暮らし支援課（図表 6-7）が、域就労支援センターにおける就労支援事業と無料職業紹介事業を、セットにして実施してきた（それぞれの取り組みのアウトプットは図表 6-8、6-9 を参照）。

図表 6-7 豊中市暮らし支援課概念図



出所：ヒアリング当日配布資料を筆者が編集。

図表 6-8 地域就労支援センターにおける相談・支援の推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
全体の相談者数	514	469	631	892	1033	897	1083	1108	1024
新規相談者数	334	336	506	666	819	512	660	605	604
全体の相談件数	1892	1803	2055	3246	3434	6555	6195	6104	5052
全体の就職者数	185	154	185	368	386	301	290	229	242

出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

図表 6-9 無料職業紹介所における各種人数推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
新規求職者数	96	832	1211	1092	847	448	393	243	449
新規求人数	603	1335	1794	2249	1966	1923	1797	1107	1292
求人件数	262	536	705	793	684	613	659	462	449
求人企業数	153	281	343	445	422	358	366	286	242
紹介件数	94	733	1383	1145	886	488	483	237	356
就職件数	29	94	186	180	192	179	86	70	97

出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

就労支援事業は、就労に向けた訓練（動機づけ・職業訓練・履歴書添削等）を、生活上の課題や福祉的課題の解決を含めた形で相談者を支援する試みで、2003年より実施されている。

無料職業紹介事業は、相談者の生活状況や労働のニーズを聞いた上で、個別に仕事を提案する形をとっており、2005年から実施されている。

2 生涯現役サポートセンター（「Sサポ」）の取組

豊中市では、1に示した2つの取組に結びつけられる形で、連携事業を展開している。図表6-10に示しているのは、豊中市が全戸配布している広報誌「広報とよなか」の記事である。この記事は反響が大きく、高齢者にSサポの取組が広く周知されたのみならず、この記事を目にした企業から高齢者雇用の検討の相談も寄せられたという。

図表 6-10 「広報とよなか 2017年7月号」2~7ページ

生涯現役!

シニア世代の就労を
応援します



「ずっと働き続けたい」「定年退職後は仕事から離れていけれど、また働きたい」「知識や経験を地域のために活用したい」といった意欲があるが、「もう高齢だから...」「未経験の分野に今から飛び込むのは不安...」と、就労に踏み出せないシニア世代の人は少なくありません。年齢を重ねても自分の持てる力を発揮し、生きがいを持って活躍できるような市は応援しています。今回はシニア世代と仕事との出会いを応援するさまざまな事業を紹介します。

(くらし支援課)

シニア世代の就労を応援します

働きたいシニア世代と、活躍できる場をつなぎます。

とよなか生涯現役サポートセンター「Sサポ」

<福中市生涯現役促進地域連携事業推進協議会>

「未経験の職種でも挑戦を応援」
「未経験の職種でも挑戦を応援」
「未経験の職種でも挑戦を応援」
「未経験の職種でも挑戦を応援」



「働く場を応援」
「働く場を応援」
「働く場を応援」
「働く場を応援」

**私たち事務局が
出会いの場を
提供します**

愛称は「Sサポ」

とよなか生涯現役サポートセンターとは
厚生労働省の「生涯現役促進地域連携事業」の受託団体で、福中市、福中市社会福祉協議会、福中商工会議所、シニアアクトセンターとよなか、豊田市民センターが連携して構成されています。平成28年(2016)10月から活動を始め、シニア層を採用したい事業者と就労意欲のあるシニア層をつなぐためのマッチング支援や就労促進講座、企業を対象としたシニア送付セミナー、雇用の促進するための専門家派遣などさまざまな事業を行っています。

シニア世代の就労を応援します

仕事と出会い、

地域に貢献できる実感



「働く場を応援」
「働く場を応援」
「働く場を応援」
「働く場を応援」



人生経験を生かした活躍の場を
セブティレブ 豊中北地区4丁目店 店長 藤井浩史さん
長年、食品関係の仕事をしてきた藤井さんは、これまでの経験から品質管理への理解があります。また、配達の際には弁当を渡すだけでなく、「体調はいかがですか」といった一言を必ず添えられます。そうしたことが、お客さまからの信頼につながっていて、私たちがもてらる仕事にやりがいを感じています。
他にもシニアの皆さんに働きかけてもらっており、掃除一つをとっても丁寧で、気遣いのある仕事ぶりです。また、若い人は長期間の勤務を望む場合が多いですが、シニアの皆さんは少しの時短でも働きたいと言ってくれるので、長時間でも働ける人材を求めている24時間営業のコンビニにとって強い味方です。これからも継続的に雇用し、活躍できる職場を提供していきたいです。

生きがいを発見

働くことで新たな喜び



「働く場を応援」
「働く場を応援」
「働く場を応援」
「働く場を応援」



強みを生かせる職場づくりを
本数 総務部長 前川茂生さん
人材を探しているときに、シニアの就業を支援している「とよなか生涯現役サポートセンター」が、シニア層を対象とした合同面接会を行っていることを知り、求人コーナーを出しました。そこで野村さんとはじめ、シニアの就業希望者がたくさんいることに驚くと同時に、そうした皆さんと結び付く良い機会だと感じました。
シニアの皆さんは、仕事ができる、人生経験を生かしたアドバンテージを若い世代にできます。そして、年齢の高さからは「若い年代の人が働くと安心感がある」という声もあります。さまざまな年齢層がそれぞれの得意分野を生かしながら働けることが一番だと思います。これからも多様な人が強みを生かして働ける職場を築いていきたいです。

シニア世代の就労を応援します

働き方いろいろ『Sサポ』はシニアのチャレンジを応援しています

集まって楽しく作業をする「内職ひろば」

豊中市の「内職ひろば」は、高齢者が集まって楽しく作業をする場です。ここでは、手芸、刺繍、折り紙などを行っています。参加者は、作業を通じて交流を深め、生き生きとした生活を送っています。



あなたの活躍の場を探しませんか？

水戸義経事務所・チャレンジ講座、色商企業環境、生涯生活設計セミナーなど、とよなか生涯現役サポートセンターは、さまざまなセミナーを開催しています。どのセミナーに参加すればいいのかわからないという人には、個別相談も受け付けています。

7月・8月の事業予定 ▶申し込み=とよなか生涯現役サポートセンター 06152-7662
※詳しくは16ページをご覧ください。

- 飲食店の仕事説明会
- シニア職業説明会 + 就職体験
- シニアのためのおしごとカフェ ~整備・管理・清掃編~
- スーパーの仕事体験

シニアが輝く 就労環境づくりを進めます

くろしお政策課 濱政治司

「豊中市には、高齢者が活躍できる環境づくりを進めています。例えば、高齢者が安心して働くことができるよう、職場での働き方をサポートしています。また、高齢者のスキルアップを支援するための研修や講座も開催しています。高齢者が活躍できる環境づくりを進め、高齢者の就業を支援していきます。」

シニアのためのおしごとカフェ



4つの事業所がそれぞれの特徴を兼ね備えています。後半は、事業所の説明や個別相談、就職体験などを行います。必要に応じて、個別の相談も受け付けています。

参加者の声

定年退職後、経験を生かして働ける仕事を探していました。希望に合った仕事が見つかったことで、来て良かったです。(71歳女性)

気軽に話ができ、気になる疑問に答えてもらい、内容が充実していました。元来なりは社会に貢献したいと思っています。(67歳男性)

市は相談に応じながらきめ細やかな就労の支援もしています

生活福祉センターでくろしお（元総務部）や労働政策課（元労政課）にある増設されたおしごとカフェは、就業の支援を必要とする人へのセミナーを取り組むを行っています。

専門のコーディネーターが参加者の希望や個性に合わせた就業支援を行います。また、就業支援センターや労働政策課に併設した就業支援センター（おしごとカフェ）も、就業支援の場として活用されています。

出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

Sサポでは、豊中市の連携事業で新たに切り出した業務や、後述する「シニアワークセンターとよなか」によって創出された事業への接続を、従来の豊中市による就労支援事業と無料職業紹介事業のノウハウを活かして行っている。今後は、市の無料職業紹介事業と連携して、職業紹介に特化したワンストップ窓口の設置も予定されており、市の既存の事業との綿密な連携が期待される。

3 「シニアワークセンターとよなか」による事業創出

豊中市の連携事業のもう1つの大きな取組は、「シニアワークセンターとよなか」（以下、「センター」と表記）による事業創出である。これは、株式会社新事業開発研究所に市が委託して実施されているものである。新事業開発研究所は、2013年度の緊急雇用創出事業から様々な事業創出の取り組みを行っており、連携事業における事業創出はその延長にあると言える。センターの事業のうち、タブレット事業、農業事業、内職事業、居場所コーディネーター養成事業が現在の好事例としてあげることができる。

タブレット事業は、新事業開発研究所が緊急雇用創出事業の間に養成したタブレットの使い方を教える高齢者の講師を登用して、同世代間で（つまり、高齢者を対象に）講習を行うものである（図表6-11）。この事業への参加者数は、2016年4月～2017年3月において、の

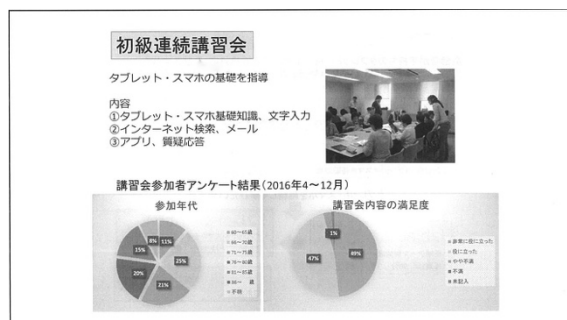
べ1240人（1回でも参加した人数は802人）にも上り、大変人気を博している事業となっている。

農業事業では、（豊中市内には遊休農地がないため）近隣の豊能町の農地を用いて、センターの職員（この職員は、緊急雇用創出事業の際にセンターに雇用された高齢者）による耕運機の実演等の見学会や収穫の体験会も含みながら、1日5時間週3日程度、本格的なものを行っている。収穫した農産物は、直売や無人販売、委託販売やイベント販売等を通して売られている（図表6-12、6-13）。

内職事業は、2箇所（庄内、蛍池）の作業所に高齢者を集め、中小メーカーから受注した、手袋や雑巾の検品・縫製、断熱材への両面テープ貼り、ニット製品の手縫い縫製等の手作業を行っているものである（参加者は庄内37人、蛍池34人）。作業所にはセンター職員が常駐して納期管理を行い、参加者に作業を教えるもいる。作業所に集まった高齢者は、談笑したり黙々と作業したりと、人によって様々な形で時間を過ごすことができる（図表6-14）。

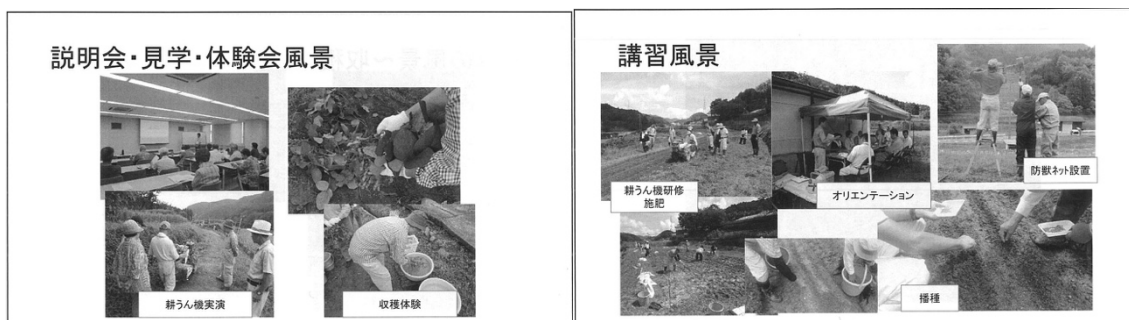
居場所コーディネーター養成事業とは、今後空き家を使って独居老人や生活困難者の居場所をつくっていく事業に向けた、居場所の管理者を養成するものである（参加者数は、平成28年4月～29年3月において、のべ21人（1回でも参加した人数は11人）（図表6-15））。

図表6-11 タブレット事業の様子



出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

図表6-12 農業事業の様子①



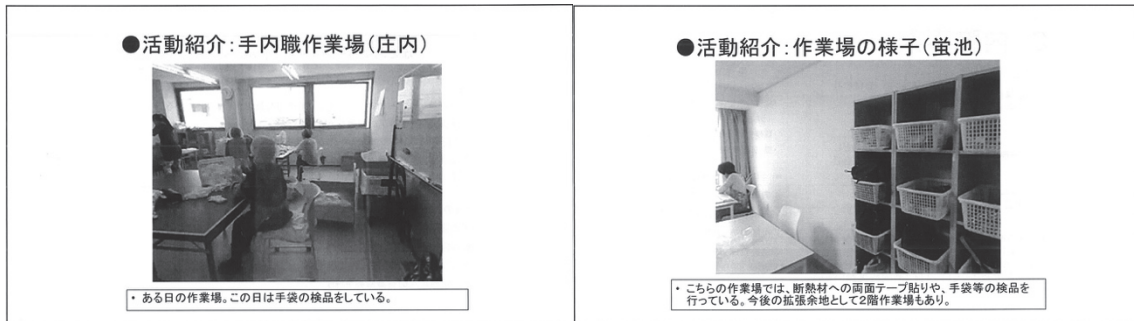
出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

図表 6-13 農業事業の様子②



出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

図表 6-14 内職事業の様子



出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

図表 6-15 居場所コーディネーター養成事業の様子



出所：ヒアリング当日配布資料より引用。

これらのセンターの事業は、事業単体で独立して継続できる形を目指していることが特徴的である。つまり、発意を持った高齢者を講師やコーディネーターとして養成し、その高齢者自身が事業を運営し、また、無理のない程度にランニングコストを賄えるようにするモデルをつくっていくことが目指されている。実際、図表 6-16 に記すように、(居場所事業はまだコーディネーター養成段階ではあるが) 各事業は単独で一定水準の収入をあげており、この目的はある程度達成されていると言える。

図表 6-16 シニアワークセンターとよなかの各事業の合計収入と収入を得た人数

	収入を得た人数（人）	合計収入（円）
タブレット事業	16	¥1,174,500
農業	10	¥1,253,345
内職事業	71	¥3,846,607
居場所コーディネーター養成事業	-	¥10,500

出所：ヒアリング当日配布資料より筆者作成。

第3節 「とよなか地域ささえ愛ポイント事業」によるボランティア活動の推進

豊中市では、連携事業とは別に、「とよなか地域ささえ愛ポイント事業」（以下、「ポイント事業」と表記）という、高齢者によるボランティアを通じた地域の活性化を図る取組を行ってきた。これは、2012年10月1日から開始されたもので、市内の65歳以上で介護保険第1号被保険者を対象に、市内のいくつかの施設でのボランティア活動について時間単位でポイントを付与し、そのポイントに応じて市が現金を支払うという事業である。

ポイント事業への参加希望者は、月2回ペースで開催される事業説明会（1回につき参加者は10名程度）に出席し、登録する必要がある。2017年4月1日時点で登録者数は851名であり、事業の対象となる市内の介護保険施設や社会福祉協議会のボランティアセンター等の施設は122施設に登る。ポイントは、1日1時間程度の活動について100ポイント付与され（上限1日200ポイント、年間5000ポイント、ポイントは付与された翌年度の4月10日まで有効）、100ポイントにつき100円（最大5000円）が登録者の口座に振込まれることになる。2016年度に市が支払った総額は239万7300円となっている。

こうしたポイント事業は、ボランティア活動を希望する高齢者が、支援を必要とする高齢者に社会貢献活動を行うことで、高齢者自身の介護予防を推進し、かつ、換金できるポイント制度を採用することで、参加意欲を高めることを図ったものである。また、ポイント事業の対象となる施設にとっても、植木の手入れや利用者の話し相手になるといった人手不足の解消や、ボランティアの高齢者が一芸を披露することで日々の活動に刺激を与えるなど、メリットが大きい。加えて、こうしたボランティアを受け入れている開かれた施設であるというPRも可能であり、まさにwin-winの関係にあると言えるだろう。

ポイント事業は、登録を通じ、高齢者へのアウトリーチを可能としているが、高齢者の多様な活躍という観点から見たときにも、ボランティアという選択肢について、どのように積極的な参加を促すかという点で興味深い取り組みであると言える。すなわち、積極的に賃金労働をしたいわけではないが、何かしらの活動を希望する高齢者について、ボランティアという活躍の選択肢をより魅力的なものとして提示できるものであると言えよう。後述するが、

事業参加者数こそ大きな増加を見せてはいないものの、5年半近く事業が継続しているという事を考えれば、豊中市のポイント事業は好事例であると考えられるだろう。

第4節 それぞれの取組の課題とまとめ

1 今後の課題

Sサポによる個別の職業紹介、センターによる事業創出、ポイント事業によるボランティア活動の促進と、豊中市の取り組みは多岐に渡っているが、それぞれに課題も存在する。

Sサポについては、職業紹介は個別に対応しているため、現在、大人数を一度に紹介する仕組みはできていない。当然、丁寧な高齢者の就労ニーズの把握を通じた職業紹介は重要なことではあるが、今後は大規模な職業紹介の形態も視野に入れていく可能性がある。また、高齢者雇用について、企業の人手としてのニーズには対応できている一方で、高齢者の経験や知識を重視する企業のニーズには応えられていない。こうしたニーズに対応するため、人材バンク事業のような取組を考えているようだ。

センターの事業創出については、ランニングコストの捻出とセンター職員の負担が課題となっている。現在は連携事業のバックアップと緊急雇用創出事業期の成果によって各々が独立の事業として推進しているものの、今後はより低コストで収益を得るアイデアが要求されるようになる。特に、いかに各取組への参加費を抑えながら（高くなると、人が集まらなくなる）家賃や会場費を賄っていくかということは、重要な課題になっている。また、センター職員が農地や作業所の管理を行っているが、その職員の負担が大きくなりがちであることも懸念材料になっている。今後、講師やコーディネーターとして養成された高齢者が、センター職員と同様の立場になっていく場合、どれだけの負担を負っていいのかということも踏まえながら、よりよい事業運営の形態を考えていく必要がある。

ポイント事業では、5年半近く継続している一方で、ボランティア従事者が固定化され、登録者数が横ばいの状況が続いていることが課題になっている。また、参加層が固定化されているために、年齢層も高くなってきている。ポイント事業への参加の啓発キャンペーンは現在積極的には行なわれていないため、今後事業を盛り上げていくためにも、新規参加者を増加させるための取組が必要になっていくだろう。

2 まとめ

ここまで、連携事業の一環であるSサポの職業紹介とセンターの事業創出、ボランティア活動推進のためのポイント事業の3つの取組を取り上げてきた。Sサポでは、豊中市の既存の就労支援事業と無料職業紹介事業のノウハウを活かし、高齢者を個別の就労ニーズを踏まえた上で、新規に切り出した仕事や創出された事業へ接続していた。センターの事業創出では、意欲のある高齢者を、高齢者を対象とした事業を運営する講師やコーディネーターとし

て養成し、独立して事業を展開していくことが目指されていた。センターによって創出されたそれぞれの事業は、参加者数が一定水準の収入を得るところにまで到達していた。ポイント事業では、市内の介護保険施設等においてボランティア活動を行った（ポイント事業に登録した）高齢者に対し、時間あたりに換金可能なポイントを付与することで、ボランティア活動への参加を促す取組がなされていた。

豊中市の取組はそれぞれ、以前から行われてきた事業を引き継ぐ形でなされているため、継続的に幅広い取り組みを実施することができている。無論、他のあらゆる自治体が豊中市のように従来からの様々な事業の成果を蓄積できているわけではないため、この事例のように幅広く事業を展開することは難しいかもしれない。しかし、豊中市の事例は、職業紹介、事業創出、ボランティア活動推進という高齢者の活躍についての様々な分野における好事例を提供しているため、それぞれの取組を個別に参考にすることができるだろう。